



はじめに

歯科衛生士として長い間、ブラッシング指導とは、ブラークの取り方を教えるものだと思っていました。

でも、よく考えると、染色をしてもしなくても、歯に付着しているブラークを歯ブラシの毛先を当てて掻き取るという行為にはあまり理論はなく、そこには特に専門性はないとずっと感じていました。

ブラークの存在を認識さえできれば、誰にでもブラークを取ることができる。

専門家にわざわざ教えてもらうほどの価値があるのだろうか……。

だから、患者さんにそのブラークを認識してもらうことが指導だと思い込んでいました。

「口腔内は十人十色、千差万別、誰一人として同じではない」はずなのに、誰に対しても同じパターンの指導をしていると感じている歯科衛生士の方は多いと思います。

それは、ブラークを指摘してブラークの取り方の指導をしているだけであるとすれば、至極当然のことなのです。

私たち歯科衛生士がブラークコントロールのプロとして、ブラッシング指導を行ううえで最も大切なのは、

「個々の患者さんの口腔内の特徴を読み取り、今の口腔内に合った歯ブラシを選択、提案してあげる」ことだと思います。

そこに専門家としての視点や考えが発揮されるのです。

まさに、診断能力がなければ、歯ブラシは提案できないのです。

それに気づいたとき、私はブラッシング指導に対して、専門家としてのあり方、価値を見出したのです。

予防を担っている歯科衛生士にとって、歯ブラシとキュレットスケーラーは2大武器です。たかが歯ブラシですが、されど歯ブラシなのです。

個々の患者さんの口腔内はみな違うのに、みな同じ歯ブラシでよいはずがない。

“歯ブラシなんてなんでもいい”はずがないのです。

大切な健康を守る歯ブラシだからこそ、その価値を伝えられるのは歯科衛生士しかないのです。

予防において、ホームケアの力は大きいと認識するなかで、私たちは歯ブラシの知識をもち、歯ブラシにこだわることで、もっとやりがいを感じられるはずです。

あなたも歯ブラシの専門家として活躍しませんか。

2013年11月

長谷ますみ

